

公共下水道施設整備計画

秦野市では、皆さんに安心して公共下水道を使用していただくために、施設の効率的な整備や耐震化の推進を図るための、公共下水道事業の施設整備を次のとおり計画し、取り組んでいます。

基本施策	主な取組み	取組み時期
① 安定した汚水処理	汚水枝線及び汚水ますの整備	R3～12年度
② 効果的な浸水対策の推進	雨水幹線及び枝線管きよの整備	R3～12年度
③ 効率的な施設整備	計画的な管きよ等の更新	
	浄水管理センター機械棟・水処理棟等の更新	R3～12年度
④ 効率的な施設整備	中央処理区管きよの耐震化	R3～4年度 R6～12年度
	浄水管理センター機械棟・水処理棟等の耐震化	



ハダノ
上下水道物語



下水道マスコットキャラクター
スイスイ

公共下水道施設整備計画は、令和3年度からの上下水道局の具体的な行動を示すため策定しました、「はだの上下水道ビジョン」（令和3年3月策定）の計画期間内における施設整備の計画です。「はだの上下水道ビジョン」についての詳細は、第1話をご覧ください。

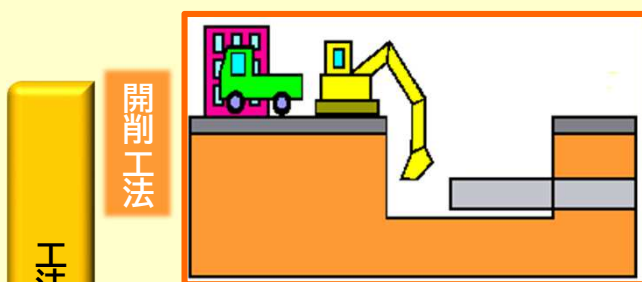
令和3年度の実績

雨水幹線及び枝線管きよの整備

近年多発している局地的な豪雨に加え、都市化の進展による地表面の浸透率低下に伴う浸水被害を軽減するために、秦野市では、浸水被害が発生する恐れのある地域を中心に雨水管の工事を進めています。

特に、これまでに浸水被害が多かった、大根・鶴巻地区の被害軽減を目指して整備を重点的に行ない、時間雨量50mmに対応できる雨水幹線の整備を令和元年度にほぼ完了しました。

令和3年度については、過去に浸水被害が発生した箇所や発生の恐れがある地域の被害軽減に向けて、雨水管きよの整備を行いました。



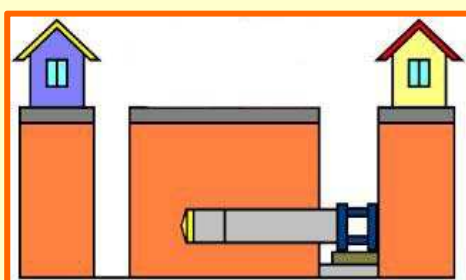
開削工法

工法の紹介



南矢名での雨水管工事の様子
(令和3年度実施)

道路を直接掘削して管を敷設する工法です。(深さが浅いところに用いられる一般的な工法)



推進工法



千村での雨水管工事の様子
(令和3年度実施)

深い縦穴を掘り、そこからトンネルを掘って管を敷設する工法です。(管を深く埋設する場合に用いられる工法。)



計画的な管きよ等の更新

秦野市で管理している管きよは、設置から長い年月が経過したものが多いため、経年劣化に伴う管内の損傷状況について調査を行い、破損などが見受けられる管については、更新工事を行いました。



カメラを用いた管きよ内の破損等の調査の様子

更新工事の工法の1つとして、**更生工法**という施工方法があります。
 更生工法とは、道路を掘削せずに、マンホールを利用してライニング材(管きよ内面を被覆する材料)を管きよ内に挿入し、空気圧をかけて広げ、円形の状態で硬化させ、既設の管きよ内に新たな管きよを再構築する工法です。
道路の掘削をする必要がないため、施工日数を短縮することができ、現在の更新工事では主流の工法となっています。

秦野市では、管きよに問題が起こった際に調査や補修を行う事後保全型の維持管理から**予防保全型の維持管理**へと切り替えを行い、皆さんに安心して公共下水道を使用していただけるように、適切な施設の維持管理に努めています。



施工前



ひび割れ

更生工法による施工
(令和3年度実施)

施工後



浄水管理センター機械棟・水処理棟の耐震化

公共下水道の汚水処理場である浄水管理センターは、昭和56年2月から約40年間、毎日休むことなく汚水を処理し続けており、各設備の老朽化が進んでいます。

秦野市では、大規模な地震が発生した場合に、継続して適切な汚水処理が行えるように、計画的な耐震補強工事を進めており、令和3年度は、浄水管理センター内の水処理施設の耐震補強工事を行いました。

水処理施設の壁新設工事

※耐震性能を診断し、耐震性能を有していないと判断された箇所の詳細な調査及び適切な施工方法を検討して工事を行っています。

施工前



施工後



今後も、浄水管理センターが適切に稼働し、安定した汚水処理を行えるように、下水道施設の改築・更新に併せて計画的な耐震補強を進めていきます。



水処理施設の外観